

佳作

夜に咲いたひと

あさとよしや

今夜も終電逃した川田さんが

職場の片隅に佇んでいる

川田さんを車の助手席に乗せ

僕は三鷹通りを走る真夏の深夜を走る

暑くても寒くても

白いニット帽の川田さん

最近、旦那さんと上手くいってないと

寂しそうに話す

笑う僕の顔が上戸彩に似てると言っ

笑ってる そんな川田さん

布田駅のロータリーで降りた川田さんは

今夜も暑いねと言った

白いニット帽が闇夜に浮んで見えた

川田さん、どうしていつも

ニット帽を被っているんですか？

と今日も聞けなかった

今夜も終電逃した川田さんが

職場の片隅に佇んでいた

川田さんを車の助手席に乗せ

僕は三鷹通りを走る真冬の深夜を走る

ちょうど一年前にライブを観に行き

はしゃぎすぎて、ひっくり返り

頭を強く打って川田さんは死んだ

と同僚からは聞いていた

しかし死んだことを

自覚していないのか

いまでも会社で遅くまで

働いては終電を逃している

僕はそんな川田さんを

いつも彼女の自宅近くの布田駅まで  
送っているのだ

今夜は雪降るかもねと窓の外を眺める

白いニット帽の川田さん

産まれたばかりの赤ん坊の沐浴が

ちよー怖いって、僕が話せば

最近、旦那さんとの会話が無いと

川田さんは倦怠期を嘆く

布田駅のロータリーで降りた川田さんは

今日もありがとねと言って白い息を吐いた  
やがて雪が降ってきて  
ふたりは空を見上げた

川田さん、どうしていつもニット帽を……  
と今日は言いかけたが、止めてしまった  
冬にニット帽を被っていても  
別段可笑しいことはなかった

今夜も終電逃した川田さんが  
職場の片隅に佇んでいる  
川田さんを車の助手席に乗せて  
僕は三鷹通りを走る春の夜を走る

ソメイヨシノは一番低級な桜だつて

偉い先生は言っていたけれど

それなら私だつて言つてやるわ

現代の桜こそ最高だつて

街路灯に照らされて

ひらひら舞い落ちる花びらに

私は陳腐な形容詞なんて与えない

川田さんはそう言つた

僕は車を止めて桜を眺めた

今夜はあまり喋らないのねと

助手席の川田さんは僕を見る

今夜の僕はずっと黙ったまま

何も話すつもりはなかった

やがて川田さんは外に出て

桜並木を見上げて車道を歩き回った

布田駅のロータリーで降りた川田さんは

今夜もありがとねと言った

川田さんの白いニット帽に

桜の花びらが付いていた

僕は思わず、その白いニット帽を

川田さんの被っているニット帽を

取ってしまった

露わになった川田さんのその頭には

この世で一番美しいものが咲いていた

川田さんは少し驚いて、やがて笑った

いや、泣いていたのかも知れない

それからしばらくして

僕は会社を辞めて 東京を去った

いまでも川田さんは

あの白いニット帽を被って

終電を逃しているのだろうか



そんな川田さんのはなし